

国立 国会 図書館 月報

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2023.6



特集 大学1年生のための国立国会図書館入門
はじめての国立国会図書館

『図書館に訊け!』著者に聞く

国立国会図書館をどうやって「私の」図書館にするか?

井上真琴

大公開! 画像の「中身」を検索する次世代技術

国立 国会 図書館 月報

NO. 746
JUNE 2023

CONTENTS

- 1 『虞列伊氏解剖訓蒙圖』
— 明治時代の解剖図集 —
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 特集 大学1年生のための国立国会図書館入門
- 5 はじめての国立国会図書館
- 8 『図書館に訊け!』著者に聞く
国立国会図書館をどうやって「私の」図書館にするか?
井上真琴
- 19 大公開! 画像の「中身」を検索する次世代技術
- 26 ミニ電子展示「本の万華鏡」第33回
NINA—虚像と実像—
エンタメ ホンモノ
- 18 館内スコープ
僕たち典拠三兄弟
- 28 本屋にない本
『ごんには京都市電「京都市電関係資料」を
ひもとく!』
- 29 NDL Topics



表紙:「緑蔭読書」宮川春汀筆
『少年世界』15巻10号
博文館 1909.7 23cm
<請求記号 Z32-B239>

『虞列伊氏解剖訓蒙圖』 —明治時代の解剖図集—

米川和志



右は表紙、左は「左手諸筋之図」



虞列伊氏解剖訓蒙圖

[乾][坤]

虞列伊 [著] 松村九兵衛 [1872]

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881669>

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881672>

昔から、よく肩が凝ります。疲れたな、と思つて揉んだり叩いたりしますが、放つておくとそのうち気にならなくなつて、またひどくなるまで肩の存在を忘れていきます。改めて考えると、私は自分の体に対してとても薄情です。それに、自分の体というものをよく知りません。本稿で紹介する『虞列伊氏解剖訓蒙圖』⁽¹⁾は、普段意識しない、皮膚の下にある、筋肉や、骨や、内臓や、神経にスポットライトを当てています。

本書は大野藩（現福井県）出身の医師、松村矩明（天保13（1842）〜明治10（1877）年）⁽²⁾が訳した解剖図集です。原著はヘンリー・グレイ（Henry Gray 1827〜1861）⁽³⁾の *Anatomy: Descriptive and Surgical*。1858年にイギリスで初版が発行され、現在は第42版まで刊行されている、歴史の長い解剖学の教科書です（以下「グレイ解剖学」）。松村が訳したものはその第5版で、実際に松村が翻訳に使用していた原本は、東洋文庫に保管されています。

本書が出版された明治の初めは、日本が西洋に知識を求めていた時代でした。日本の解剖学の歴史は、江戸時代に始まると言われています。宝暦4（1754）年、五臓六腑説に疑いを持った山脇東洋（宝永2（1705）〜宝暦12（1762）年）が、刑死者を解剖しま



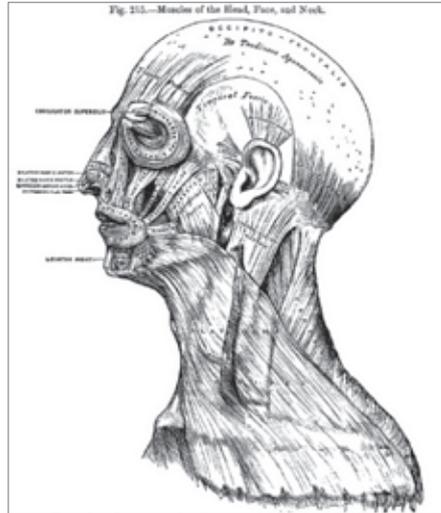
(右)『臧志』
山脇尚徳 著, 山脇侃 校, 宝暦9 (1759)
<W415-11>

(左)『解体新書』
キュルムス 著, [前野良沢] [訳], 杉田玄
白訳 [他], 須原屋市兵衛, 安永3 (1774)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2558887>

原著との比較



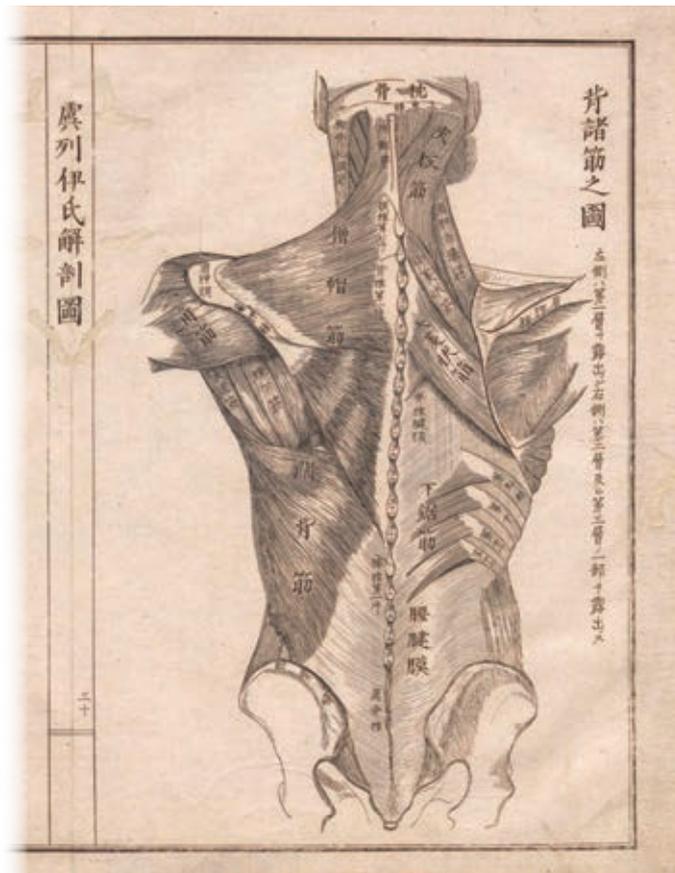
『虞列伊氏解剖訓蒙圖』
原著と比べると、模写の正確さが分かる。



原著 HathiTrust Digital Library で公開さ
れている ([https://catalog.hathitrust.org/
Record/011616515](https://catalog.hathitrust.org/Record/011616515))

した。その記録である『臧志』は、日本で公
刊された最初の人体解剖記録です。安永3
(1774)年には杉田玄白(享保18(1733)
〜文化14(1817)年)と前野良沢(享保8
(1723)〜享和3(1803)年)らが訳した『解
体新書』が出版され、日本の医学の中心は、
漢方医学から西洋医学へと移っていきます。
本書は、同じく松村が訳した『解剖訓蒙』
の別冊として刊行されました。これは、『解
剖訓蒙』の原著である *Elementary treatise
on human anatomy* (Joseph Leidy 1861) よ
り、グレイ解剖学の挿絵が優れていたためで
す。実際に図を見てみると、その精密さが分
かります。「背諸筋之圖」(左ページ)を見て
みましょう。肩に僧帽筋、胸骨乳頭筋、小菱
状筋など、多くの筋肉が集まっています。肩
凝りの原因はどの筋肉なのか、さっぱり分か
りません。肩としか意識していなかったもの
が、急に複雑な機械のように思えてきます。
なるほど、これを知り尽くして治療するお医
者さんは偉いな、などと一人で感心してしま
います。

さて、『虞列伊氏解剖訓蒙圖』と原著を見
比べてみると、模写の正確さに驚かされます。
原著の解剖図は、解剖学者であるヘンリー・
ヴァンダイク・カーター (Henry Vandyke
Carter 1831〜1897) によって描かれ



背諸筋之圖 背中から見た筋肉や骨が精細に描かれている。

○註

1) 本書は、国立国会図書館東京本館で令和4(2022)年11月11日から12月9日まで開催された企画展示「知識を世界に求めて—明治維新前後の翻訳事情—」で展示された。同企画展示を元にデジタル資料を用いて再構成した「入門科学書の翻訳と科学ブーム「窮理熱」」にも本書が紹介されている。リサーチ・ナビ「入門科学書の翻訳と科学ブーム「窮理熱」」
https://rnavi.ndl.go.jp/gallery/exhibit2022_321.html

2) 生年を1825年とする文献も多いが、イギリスのハイゲート墓地にあるグレイの墓標には、「WHO DIED 13TH JUNE 1861 AGED 34 YEARS (1861年6月13日、34歳で逝去)」とある。『グレイ解剖学の誕生 二人のヘンリーの1858年』では、医学校へ早く入学するため、生年を故意に違えたのではないかと推論している(第9章脚注63 p.375)。

3) 大滝紀雄「MEDICAL・ESSAYS グレー解剖書」『日本医事新報』2737, 1976, p.64 <Z19-212>による。原資料は東洋文庫所蔵の藤井文庫に収録されている。Gray, Henry. *Anatomy, descriptive and surgical. With an introd. on general anatomy and development.* New ed. Philadelphia. 1870. pp. xxxii, 876. 27c. I-3-G 45 (東洋文庫『藤井文庫目録』国立国会図書館, 1969<SC1-2>)

○参考文献

ルース・リチャードソン 著, 矢野真千子 訳『グレイ解剖学の誕生 二人のヘンリーの1858年』東洋書林, 2010<SC61-J47>
 坂井建雄 著『人体観の歴史』岩波書店, 2008<SC61-J16>
 『解剖訓蒙』浅井吉兵衛, 1872<Y994-J10255>
 岩治勇一「福井県人の誘導した西洋文化の啓蒙書」『日本医学史雑誌』38(1), 1992.1, pp.121-132 <Z19-494>

※< >内は当館請求記号

※ウェブサイトURLの最終アクセス日: 2023年3月31日



現在でも『グレイ解剖学』の刊行は続いている。

左から

・グレイ解剖学 原著第4版 Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell [著], 秋田恵一 訳, エルゼビア・ジャパン, 2019

・グレイ解剖学アトラス 原著第3版

Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell, Richard M.Tibbitts, Paul E.Richardson 原著, 秋田恵一 訳, エルゼビア・ジャパン, 2021

・Gray's anatomy : the anatomical basis of clinical practice, Forty-second edition, editor-in-chief Susan Standring, section editors Neel Anand [and nine others], special editors Richard Tunstall, Tom Turmezei, Caroline B Wigley, Elsevier, [2021]

ました。現在の日本では、自分の意思で遺体を解剖用教材として寄贈する献体が広く認知されています。しかし、原著が出版された19世紀のロンドンでは、大きく事情が異なりました。刑死体では十分な解剖用教材を供給できず、身寄りのない貧しい人々の遺体が、合法的に解剖の材料として提供されていたのです。解剖図のモデルになった人の中には、同意なく解剖された方もいるでしょう。その人は、どのような人生を送ってきたのでしょうか。解剖図の横顔から、その皮膚がなくなつた表情からは、何も読み取ることができません。

皮膚に隠されている筋肉や内臓たちは、私たちが少し意識するだけで、そこにあることに気付かされます。知らないところで、複雑に絡み合いながら、とても頑張っているのでしょう。『虞列伊氏解剖訓蒙圖』は、私が見て見ぬふりをしてきたものと、向き合うきっかけをくれました。本稿もそろそろ終わりですが、長い時間パソコンで作業をしていっただ、また肩が凝ってしまいました。今度はちゃんと体の言うことを聞いて、ゆっくり休ませてあげようと思います。



国立国会図書館東京本館（新館）

特集

大学1年生のための 国立国会図書館入門

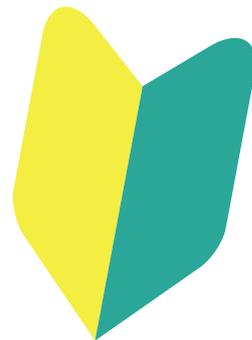
国立国会図書館。名前は聞いたことがある。でもどう使えばいいのやら……。はじめてだと、使うのをためらう気持ちもありませんか？

4月に大学に入学した大学生に向けて、「これだけは」の情報をまとめました。

日ごろ大学生に接している立場からは、『図書館に訊け!』の著作のある井上真琴さん(同志社大学国際連携推進機構事務部長)に、大学1年生のころの思い出を振り返りながら、国立国会図書館の活用法について寄稿いただきました。こちらは、広く図書館にかかわる方にも向けたエッセイです。

はじめての

国立国会図書館



国立国会図書館とは？

国立国会図書館は、国会に属する日本で唯一の国立の図書館です。National Diet Libraryを略してNDLとも呼ばれています。蔵書数は国内最大です。

なぜ国立国会図書館の蔵書は多いの？

国立国会図書館は、国立国会図書館法（昭和23年法律第5号）により国内の出版物をすべて収集することとなっているか

らです。蔵書数は、約4622万点です（2021年度末現在）。図書約1193万点、雑誌約1320万点、新聞約674万点などがあります。

どうやったら本があるか分かりますか？

インターネット上で使える「国立国会図書館オンライン」で調べれば、来館しなくても分かります。

国立国会図書館の外観



国際子ども図書館（東京都台東区）



関西館（京都府精華町）



東京本館（東京都千代田区）

本を書いた人の名前が分かっている場合どう調べる？

「授業を受けている大学の先生がどんな本を書いているのか調べてみたい」といった場合にも「国立国会図書館オンライン」が、心強い存在です。「詳細検索」画面で検索してみると、著者やタイトルなどを区別して調べられるので、おすすめです。

パソコンやスマートフォンから見られる資料もありますか？

あります。近年、国立国会図書館ではデジタル化を進めており、「国立国会図書館デジタルコレクション」を通じて、約343万点の資料を公開しています（2022年度末現在）。この中には、インターネット上で見られる資料もあります。また、利用者登録を行うなど必要な手順をふめば、「個人送信サービス」を通じて

さらにたくさんの資料を利用できます。

「国立国会図書館オンライン」で調べれば、探している資料がパソコンやスマートフォンで見られるか分ります。

利用したい資料がインターネット上で見られない場合は、どうすればいいですか？

来館して閲覧・複写を申し込んだり、「国立国会図書館オンライン」を通じて遠隔複写を申し込むことができます。

ただ、その前に、自分の一番身近な図書館（たとえば自分の大学の図書館）の蔵書やデータベースで見られないかも確認してみてください（というのも、国立国会図書館に来てコピーなどを入手したあとで、身近な図書館に同じ本や雑誌があることを知ると、がっかりしてしまいますよね）。

覚えておきたい2つのデータベース



国立国会図書館オンライン
<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>
資料の所在やデジタル化された画像の有無を確認できます。



国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/ja/>
デジタル化された画像等を見られます。

[参考]
「読書が変わる？ 国立国会図書館の新たなサービス "個人送信" Q&A」『国立国会図書館月報』740号, 2022.12
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12360494_po_geppo2212.pdf?contentNo=1#page=22
「デジタルコレクション、リニューアル その機能を探る」『国立国会図書館月報』743号, 2023.3
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12648951_po_geppo2303.pdf?contentNo=1#page=21



公式 twitter



国立国会図書館の公式 twitter でも日々情報がつぶやかれています。

見る本が決まっていなくても…
国立国会図書館のウェブサイトで、電子展示会でいろいろなテーマに関する当館の資料を紹介しています。まずはご自分の興味のあることについて、気軽にサイトをのぞいてみるのはいかがでしょうか。

国立国会図書館
ウェブサイト



<https://www.ndl.go.jp/>

電子展示会



当館所蔵のユニークな資料にわかりやすい解説がついています。

ご自分が通っている大学図書館のサイトには、大学生に向けた情報が分かりやすくまとめられていることも多いので、在籍している大学図書館のサイトもぜひ活用してみてください。

(文責 本誌編集担当)

国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)



同名同姓の著者などを調べる時にも活躍
<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla>

リサーチ・ナビ



調べ方の案内情報がたくさん！
<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/index.htm>

『図書館に訊け!』著者に聞く

国立国会図書館をどうやって

「私の」図書館にするか?

井上 真琴

情報環境の変化で調べ方が刻々と変わる中、どうすれば国立国会図書館を「私の」図書館にすることができるのか。図書館利用の指南本として知られている『図書館に訊け!』の著者にして、現役の大学職員でもある井上真琴さんに、大学生のころの思い出をまじえて語っていただきました。

1 国立「国会」図書館を 国立「私の」図書館にする

雑誌記事索引の衝撃

一九八〇年代の話である。大学入学式の翌日、図書館利用説明会に参加した。早速利用カードをつくる。高校をはるかに凌ぐ重厚さで独特の雰囲気を出す大学図書館。履修指導期間に毎日通い、館内をぐらぐら回っていた。そんな折である。参考図

書室と称する空間に、国立国会図書館編集『雑誌記事索引』がズラリと並ぶ低書架が目に見え込んできた。

国立国会図書館。

「?」。

書架から抜いて纏めて、国立国会図書館が収集する国内有力雑誌に掲載された論

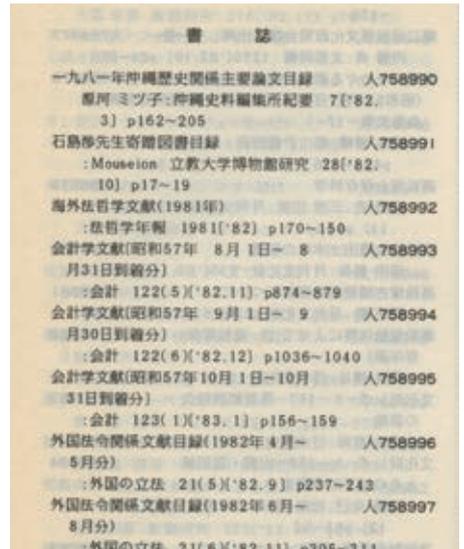
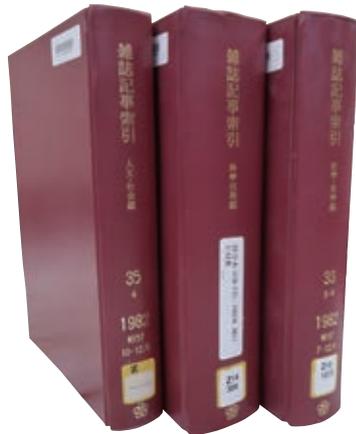


井上 真琴 氏

同志社大学 国際連携推進機構 事務部長

1962年京都生まれ。同志社大学文学部を卒業。1991年から同志社大学図書館に勤務。その傍ら京都府文化財保護課の嘱託調査員を務めた。著書『図書館に訊け!』(筑摩書房、2004)では、図書館を利用した探索力上達の秘訣を惜しみなく披露した。





(右) 雑誌記事索引では、特定の主題（テーマ）ごとに論文が分類されている。写真は「書誌」に分類された論文の箇所（「人文・社会編」）

(左) 『雑誌記事索引』右から医学・薬学編 33(3-4), 1982年7-12月<Z19-1075>、科学技術編 33(3-4), 1982年7-12月, <Z14-304>、人文・社会編 35(4), 1982年10-12月<Z21-12>。今日では、雑誌記事索引は、図書、雑誌、デジタル化資料などを総合して検索できる国立国会図書館のデータベース「NDL オンライン」で検索することができる。

文・記事を対象に、テーマや著者から効率的に探せる資料であった。特に累積版冊子^{るいせきばん}は、論文・記事を主題別に整理・配列しており、興味関心のある論文を立ちどころに見つけられる。こんな便利なものがあるんや！と驚嘆した。

学生生活でどう使ってみたのか

嬉しがるの私は、履修登録する専門科目、一般教育科目の担当者の名前を著者索引で調べ始めた。当時は授業計画を示したシラバスはない。登録科目の何をどう学ぶのか、予測もつかない。索引を引いて論文数が多いとベテラン教員、少ないと若手非常勤講師、などと理解しつつ、掲載雑誌を館内で探し、順次コピーをとる。雑誌のありかは親切な館員が教えてくれた。論文に目を通して出席すると、さまざまな発見があった。次の授業はあの論文の内容だ。サボっても大丈夫。教員は書いたことしか話せない。引用論文をさも自分の成果に見せかけて語る。試験時は「先生の論文、読んでますよ」と巧みに文章を編集し、記述しておけば楽に単位を取得できた。昔は良かった。

地方にいても役立つ図書館

それにしても、国立国会図書館は東京にあって、国内刊行物を原則すべて収集している、国会のお世話をしているだけと違うのか。こんな便利な論文・記事リストや索引を刊行しているとは。京都に住む自分には全く無縁の機関だと思っていたが……。私の先人親は払拭され、以降、国立「国会」図書館は国立「私の」図書館と思い込むようになった。目立つ場所の低書架に配架しておいてくれた同志社大学図書館に感謝したい。こうした経緯で、大学生2日目から国立国会図書館の俄か^{にわ}信奉者となった。この思い込みは人生を変えてくれた。

「調べ方」情報の提供に感激する

発見のご利益はそれにとどまらなかった。年次が進むにつれて、『雑誌記事索引』には資料の「調べ方」や「研究動向」の記事も含まれることを発見し、胸が膨^{たか}まった。特に国立国会図書館が発行する雑誌類にその種の記事が多い事実気がついた。『レファレンス』『参考書誌研究』。意味不明の雑誌名をいぶかりつつ、熱心に活用した。

例えば、アメリカの判例を調査する課題で悩む友人。『国立国会図書館月報』に「世界の議会資料・法令資料―アメリカ―」という記事がある。解説を読めば、米国の法令や判例も探せるよ。ハワイ移民の研究を志す後輩に、『参考書誌研究』という雑誌

に「ハワイ・北米における日本人移民および日系人に関する資料について」があるよと紹介する。

こうした資料を知っているだけで、20世紀は優等生になれた。本当に良き時代である。

国立国会図書館の基本方針を確認する

国立国会図書館は創設時から、サービスの中核は国会議員等からの依頼に基づいて行う調査にある。加えて、議員からの依頼を予測して自発的に行う国政課題に関する

調査研究も主眼とする。だから「調べ方」には詳しく、成果を情報共有のために刊行物で紹介している。

この方針は、1948年の創設時に米国の図書館使節が「レファレンス（調査）局を中心に編成せよ」と助言したことにあるらしい。そうした機能を国会に対して果たし、調査研究の成果を国民にも、いや今や全世界の日本に関心を持つ人々に公開している事実は、読者にも納得がいくことだろう。



1951年創刊



1961年創刊



1970年創刊

国立国会図書館の
さまざまな刊行物
左から『レファレンス』
『国立国会図書館月報』
『参考書誌研究』

2 21世紀の国立国会図書館の

デジタルコンテンツを

使いこなす

授業で活用する国立国会図書館のサービス

懐古譚かいこたんから現代に戻ろう。21世紀に入り

国立国会図書館は、所蔵資料のデジタル化、ネットワーク公開を加速度的に推し進めた。いまでは、国立国会図書館ホームページの「新着情報」で、前節で挙げた新規レポートや「探し方」の最新情報が流れており、通学・通勤時に携帯電話でも確認できる。今の学生が羨ましく、激しく嫉妬してしまう。ブックマークして、タイトルだけ、記事の要旨だけでも参照せよ、併せて新聞の「論壇時評」の記事に目を通せば、教養人のフリができるぞ、と学生に檄を飛ばしてしまう。

私は大学で「学術情報利用教育論」という授業を担当しているが、国立国会図書館のデジタルコンテンツやデータベースの利用について指導をする。偏った使い方、下手な使い方との誹りそとを覚悟しつつ、いくつが活用事例の紹介をしたい。紙幅の関係も

あり、限定した事例であることを予めお断りしておく。

国立国会図書館を推奨する理由

―「良い情報から入る」のが鉄則―

最初に、なぜ授業で国立国会図書館が提供するサービスの利用法を指導するのか、その理由を述べたい。以前、経営コンサルタントの方々と情報探索法や情報の評価等について、意見を交わす幸福な機会があった。その際、探しものの肝は、不確実な情報ではなく「良い情報、つまり信頼できる、確実な情報から調査を始めるのが鉄則」だと教わった。その対象に国立国会図書館や国立情報学研究所の提供情報が当てはまることは論を俟たない。余談ながら、そこで得た情報・知識をもとに、二次元の表の作成を想起して、「表頭」「表側」(表計算ソフトウェアでは「列」と「行」)にどういう項目を配置して整理するかを考えることができれば、物事を構造化して捉えられるようになる、とも教わった。

学生に「良い情報から入る」重要性を伝え、今後一生、無料で活用可能(であろう)

情報源として、国立国会図書館の活動を知らせたい気持ちに駆られるわけである。

刊行物―「調査と情報-ISSUE BRIEF-」と

「レファレンス」―

まず学生に促すのは、オンライン上でも見られる『調査と情報-ISSUE BRIEF-』『レファレンス』の記事を参照することである。あらゆる分野の国政課題に対応するため、国立国会図書館には分野別に専門の調査員が配置されている。その専門家が、議員からの依頼が予測される国政課題について、自発的に調査・研究を行い、レポートや論文にして成果を公開している。オンラインで読める事実を知った時は色めきたった。

事例を示そう。授業での指導効果を検証するため、与えた課題の調査過程を整理して報告するレポートを提出してもらおう。授業を聴いて、あなたならどう調べるのか？以下、レポートの一部抜粋である。



(右) 『レファレンス』829号(2020年2月) <https://dl.ndl.go.jp/pid/11451654>、
同766号(2014年11月) <https://dl.ndl.go.jp/pid/8804406>
(左) 「ふるさと納税の現状と課題 返礼品競争への対応と残された課題」『調査と情報 -Issue Brief -』
1147号, 2021年4月8日 <https://dl.ndl.go.jp/pid/11659055>
「諸外国の大学授業料と奨学金【第2版】」『調査と情報 -Issue Brief -』1048号, 2019年3月18日
<https://dl.ndl.go.jp/pid/11252967>

レポートの課題1 「ふるさと納税」制度の功罪を分析し、今後の問題解決の方途を提言する

「ふるさと納税制度については、基本用語・定義をジャパンナレッジで押さえた。国の政策であるので、国立国会図書館の発行資料がより詳細で正確な概要・参考文献を紹介していると予測し、検索エンジンで、ドメイン「ndl.go.jp」を指定してみると、「ふるさと納税の現状と課題―返礼品競争への対応と残された課題―」(「調査と情報」1147号)があることがわかった。そこには、「制度の概要」や「現状」の記述に加え、ふるさと納税制度の創設と改正に係る経緯、図表も記載されていて、これを参照しつつ次の探索作業を進めていく。

レポートの課題2 海洋汚染の現状と課題を調査し、具体的な改善政策を提言する

「海洋プラスチックごみに関して2050年までに追加的な汚染をゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」がG20首脳間で共有

され、「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」を承認したとあり、世界的な取り組みがわかる。この動きの確実な解説がないかと、信頼性のある国立国会図書館の公開資料をみるため、「海洋汚染 ste.ndl.go.jp」で調べた。すると、「海洋プラスチック汚染の現状と対策」『レファレンス』が出てきた。書きたい構成・内容に役立つため、レポート作成時のベースとして参考にしたいと思う。」

東京オリンピック開催についての課題では、経済学部生が「キャッシュレス決済の動向 我が国と諸外国の現状」(「調査と情報」1066号)を、セクシュアリティの多様性を学ぶ社会学部生が「諸外国の同性婚制度等の動向 2010年以降を中心に」(同798号)を立脚点に調査をしていた。

学生に限らない。私は大学で政策立案に携わる職員である。大学の学長権限の強化を意図した学校教育法の改正時には、「大学のガバナンス改革をめぐる国際的動向 主要国の状況と我が国への示唆」(『レファ



(上) リサーチ・ナビのページのうち「産業情報ガイド」
<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/industry/index.html>
 (左) 「外食産業について調べるには (統計・名鑑・インターネット情報源等)」
https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/theme_honbun_102113.html

レンズ」766号)、また大学の学費改定
 検討会議や学内奨学金制度の見直しの際
 は、「諸外国の大学授業料と奨学金【第2
 版】」(『調査と情報』1048号)を靴に
 忍ばせつつ、会議に参加した。即席専門
 家のふりをしていただけだが、参加者から
 の信頼は十分に得られた。

リサーチ・ナビ

少し高級な資料の活用紹介から始めた
 が、大学生に最も使ってほしい「リサーチ・
 ナビ」に話を移した。リサーチ・ナビが
 できる前は探索方法に関するコンテンツを
 「テーマ別調べ方案内」と称していた。調
 べものに役立つ情報を整理してマップ化し
 た「情報探索道しるべ」である。テーマご
 とに調査のポイント、参考資料、便利なデー
 タベース、有用なウェブサイトを、関係機関
 等を整理して紹介している。効率よく情報
 を探すノウハウだけでなく、調査の枠組み・
 展望方法を覚えることができる点が重要な
 のである。

「主題から調べる」からアクセスし、授
 業では「産業情報ガイド」をよく使う。以

前、『週刊エコノミスト』に寄稿した記事」
 れがビジネスに役立つ図書館だ(使える図
 書館)(87巻7号)でも取り上げた。この
 ガイドは、「証券アナリストの間でも絶賛
 されている」と、くだんの経営コンサル
 タントが評価していたからだ。

一例をあげよう。ある年度の授業では履
 修生の所属学部構成を考慮し、「外食産業
 について調べるには(統計・名鑑・インター
 ネット情報源等)」を利用した。ひとつの
 領域を調査するには、業界動向(『日本
 外食チェーン50』)、関連協会(日本フード
 サービス協会等)と統計資料(『食品ロス
 統計調査報告』)、名鑑類(『シエフ年鑑』)、
 調査・レポート(『中食・惣菜市場のメニユー
 ×チャネル徹底調査』)、専門雑誌・新聞(『日
 本外食新聞』)、インターネット情報源(シ
 ンクタンク・フードビジネス総合研究所)
 といった調査の枠組みを把握できる。これ
 は別の産業領域を調査する場合も、普遍的
 スキルとして流用できる。

「産業情報ガイド」以外では、日本の漫
 画やアニメを研究したい外国人留学生が
 「マンガについて調べる」を使っているし、



リサーチ・ナビ。資料の種類ごとにさまざまなコンテンツに飛べるナビゲートのページ。
<https://rnavi.ndl.go.jp/material.html>

文学部生は「人文リンク集」や「古記録・日記」について調べる「くずし字を調べる」

等を活用している。紹介資料・サイトで既にデジタル化されたコンテンツには、リンクからその場でアクセスが可能である。いまや公開されている調べ方を案内する記事は1900件を超えている。学生は必ず関心のある事項を発見できるはずである。

個人的には「地価の調べ方」「地価公示の調べ方」「相続税路線価の調べ方」「固定資産税路線価の調べ方」が面白かった。「家の傍の土地で駐車場経営、税金で頭痛いよ」とぼやく友人がいる。年賀状で偶然に住所を知った。Google Map, Earth, Street Viewで検索すると立派な邸宅の傍の駐車場は96台分の広さ。画面ゲージで概ねの面積を算定し、リサーチ・ナビが誘導する国土交通省の土地総合情報システム、資産評価システム研究センター「全国地価マップ」を見る。税金の算出方法を国税庁のデータを使い概算額は推測できる。一片の情報からリサーチ・ナビを使って様々な世界に飛翔できる。不謹慎な事例ではあるのだが。

横断的に調査する

学生はリサーチ・ナビで探索方針・手法を学びながら、キーワードの抽出や軽重判断を自分なりにを行い、関連項目の探索をさらに深める。並行して先の『調査と情報』等もみる。「小売・飲食業の深夜営業に関する動向」(965号)、「食品のトレーサビリティ制度」(764号)、「食品ロス対策の現状と課題」(1026号)が目飛び込んできたようだ。外食産業のトピックを切り出し、整理し、興味に従って絞り込む。その過程で本格的な調査へ向かう方略が徐々に見え始める。複数のサービスを連動させて、確実な情報から調査展開を始める姿を観察するのは実に痛快である。

Cinii Research を効果的に併用する

ある学生の頭に浮かび上がった興味あるトピックは、例えば「食品ロス」では、どついたら学術研究になるのか。Cinii Dissertations や KAKEN データベースを検索しつつ、タイトルや要旨から学術研究の焦点を知る。「食品ロス」を論ずるには、提供者・消費者の「意識調査」も重要だ、



(右) 国立国会図書館デジタルコレクションのページ
<https://dl.ndl.go.jp/>
 国立国会図書館が収集・保存したデジタル資料とその目次を検索・閲覧できるデータベース。
 (上) その前身となった近代デジタルライブラリー（2002年サービス開始）は2015年に国立国会図書館デジタルコレクションに統合。



定量分析が必要になる（多変量解析を勉強せよ）。「インタビュアー」に焦点をあてた定性分析も研究になる（エスノグラフィーマニュアルを学べ）。ロスの改善政策を担う「組織と制度のあり方」も政策テーマになる（組織力学と法令を知る）。政策の実践で「ロス改善の効果測定」をどう測るのか（評価指標の設定も議論になる）。学術は「対象」と「方法」が肝要と意識させ、「どうすれば学術になり、何を書けば研究論文・博士論文になるのか」を感じ取ってもらう。検索結果の画面を「読解」して、テーマや問いを構造化する過程を経験することが重要といえよう。

国立国会図書館デジタルコレクション

生成AIソフトと心中する前に、大学生が学んでおくべきことは実に多いのである。

21世紀に入って衝撃を受けたのは、2002年に国立国会図書館が明治期刊行図書デジタル化して公開した「近代デジタルライブラリー」であった。その後、大正期、昭和期（1968年まで）の国内刊行物のデジタル化が進み、貴重書画像データベース等の追加統合によって、現在では350万点を超える「国立国会図書館デジタルコレクション」に成長している。

「近代デジタルライブラリー」が登場した際は、文字どおり欣喜雀躍した。古い電話帳や商工会議所の名簿類まで画面で閲覧できた。かつて私が文化庁関係の業務で担当した京都の伝統産業の職人調査では、『京都電話番号簿』を始め、職業別電話帳や商工会議所名簿類が役立つ。後継職人の家を探す道具になり、聞き取り調査対象者の発見だけでなく、廃業の場合も残存古文書の有無の問合せにも役立つ。また、明治から戦前期の修学旅行関係の刊行物をめぐりながら、人気訪問地（砲兵工廠！もある）の変遷を調べ、修学旅行歌の本では歌詞に織り込まれた地名・場所を抽出し分類する。観光ガイドからは戦前の人気観光地の表象分析ができるなど、多様な使い方ができることを知った。

公開当時はタイトルと目次が検索の対象であったが、いまは一部の資料は全文を検索できる方向で改良が進められている。利



呉陵軒可有 編『柳多留』第 24 編 石井佐太郎ほか 天保頃 < 209-304 >

用当初からそうなることを希望していたが、資料画像の本文にインデクスがつけられれば、人文科学研究の新たなステージを迎えることができるはずである。

最近、凄しい現場を目撃した。江戸時代や明治時代の「くずし字」の版本アーカイブ画像を読む留学生の姿である。変体かなで書かれた江戸・明治の小説や記録類は、私たちでもすべて翻刻して読むのは難しい。日本研究を目指す外国人留学生にはなおさらだ。国立国会図書館デジタルコレクション内に目敏く本文画像を発見し、AIくずし字認識アプリをダウンロードして、ワンボタンで画面上に翻刻文字を出して読んでいる。もちろんリサーチ・ナビの「くずし字を調べる」も参照しているようだ(解説には、当該アプリは未掲載だが)。デジタル画像と調べ方案内を横断して使う工夫を見(魅)せつけられた瞬間であった。

3 今後のさらなる活用に 向けて

知らぬ間に受けている恩恵

私たちは、その他にも国立国会図書館のデジタル化の恩恵を、知らず識らずに受けている。

昨年、九州にある地図の博物館を訪問した。地図の歴史には各時代の営みや世界観が映し出される。貴重な地図が紡ぐ歴史の物語を伝えるために、16〜20世紀に西洋でつくられた「日本地図」の展示があった。一点一点額装された西洋古地図の日本図が一堂に並び、「丁寧な解説が加えられている。よくこれだけ揃えた、と思いきや、各世紀の展示の一部に、「複製」「国立国会図書館所蔵」と注記がある。

おそらく、国立国会図書館のデジタルデータを利用し、それをもとに複製し展示物としている。もし、一部の地図が抜けていたら、鑑賞する側には地図の変遷の理解が覚束なくなる。それを回避するため、現物収集が叶わなかった古地図については博物館側が展示しているのである。現物主



国立国会図書館の東京本館（新館）の書庫

義、本物主義を声高に主張する人もいるが、博物館は複製であっても、鑑賞者がみて不足なく理解できることが重要である。未所蔵ゆえに展示物がないよりは、複製も展示して全体を把握できるほうがよい。こうした活動にも国立国会図書館のデジタルデータは貢献している。デジタル化当初、むやみにデジタル化してどうするのかと批判を耳にしていた筆者は、この20年ほどのデジタル化の成果に感慨を新たにした。

今後の展開に期待

著作権法の一部を改正する法律（令和3年法律第52号）の施行により、2022年から国立国会図書館はデジタル化した資料のうち絶版等資料をインターネット経由で個人に送信できるようになった。私も早速このサービスを使い始めた。図書館に行かずとも閲覧できるニーズへの対応は、どんどん進展をみせている。国立国会図書館デ

ジタルコレクションに加え、「次世代デジタルライブラリー」も試験公開されていて、更なる進化が見込まれている。

しかし、利用中に迷子になる、検索操作が難しい、この声を学生から頻繁に聞く。学生が国立国会図書館のコンテンツを使うときは、検索エンジンを使い、探索領域のキーワードに加え「リサーチナビ」や「調査と情報」のフレーズを追加したり、ドメイン検索（[iriid.go.jp](https://www.iriid.go.jp/)）で絞る方が、検索結果は見やすらしい。国立国会図書館には、授業で指導する必要があるように、誘導表現や画面遷移の工夫等、ユーザーフレンドリーなインターフェースづくりも含め、引き続き改善に努めてもらうことに期待したい。

以上、読者のおつきあいに感謝しつつ、長口上を終わることにする。



僕たち典拠三兄弟



生まれる前のラフスケッチはこんなだったよ！

こんにちは！僕たち典拠三兄弟。典拠データとWeb NDL Authorities (略してWeb NDL A。正式名称、国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス)の妖精だよ。生まれ故郷は収集書誌部収集・書誌調整課書誌調整係。「官製雑キャラ」という声もちらほら耳にするけれど、2015年12月の国立国会図書館月報656号に初登場するまでには、それなりに長い道のりがあったんだ。デビュー前の姿もちょっぴりお見せするね♪

でもそもそも「典拠データ」ってナニ？という人も多いかもしれないね。典拠データとは、資料を探す手がかりとなる著者名やキーワードを整理してまとめたデータのこと。典拠データを使えば、同姓同名の著者を見分けたり、いくつもの名前をもつ著者をまとめて検索できたり、とっても便利になるんだ。そんな便利な典拠データ140万件以上を検索できるサービスがWeb NDL Aというわけ。Web NDL Aの典拠データは、世界の国立図書館などの典拠データが登録されているVIAFという国際的なサービスにもリンクしているから、世界中の典拠データにもつながることができるとだよ。

僕たちの生まれ故郷、書誌調整係は、書誌データを作るためのルールの管理が主なお仕事。書誌データとは、資料を探すために必要な情報を記録したデータのことだよ。典拠データも書誌データの仲間なんだ。細かいルールがたくさんあるけれど、どれも資料を探しやすくするために欠かせないものなんだよ。ほかの図書館でも参考にしてもらえるように、ルールはホームページで公開してるから、興味があったら見てみてね。

書誌調整係は、書誌データのルールだけでなく、Web NDL Aの管理も担当しているよ。2022年秋に行ったWeb NDL Aについてのアンケートでは、「レファレンスツールとして使ってます」とか「著作権調査に便利」など、資料を探すだけでなく、典拠データがいろいろな使われ方をしていことが分かったんだけど、「知名度が低いからもっと広報したら？」というご指摘も……。最近は「Twitter」や図書館総合展に登場して僕らの得意技「みわける」「まとめる」「つなげる」をPRしたけれど、まだまだ盛り上げ方が足りないなあ……。典拠データとWeb NDL Aのよさをもっと多くの人に知ってもらえるよう、典拠三兄弟も頑張ります！

(収集・書誌調整課 典拠太郎・次郎・三郎の中の人)

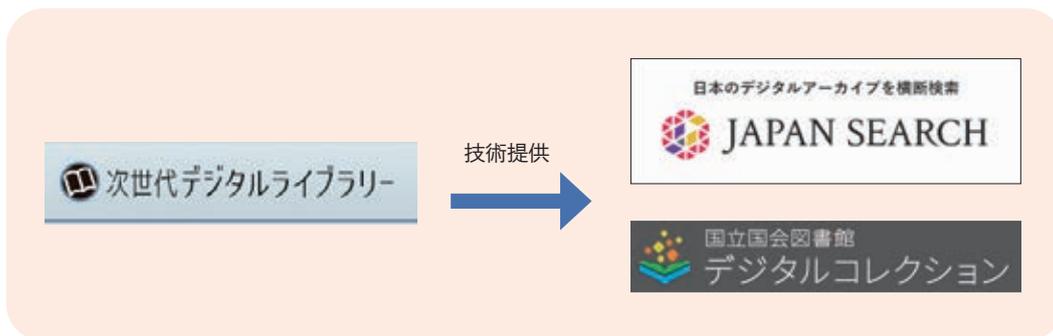


画像の「中身」を検索する 次世代技術

2022年12月、国立国会図書館(以下、NDL)は、国立国会図書館デジタルコレクションで提供するデジタル化資料の多くについて、全文検索を可能としました。これは、NDLがこれまで行ってきたOCR(光学式文字認識)技術を用いたデジタル化資料のテキスト化と検索技術に関する調査研究の成果です。

ところで、資料に含まれる情報は、OCRで書き起こせる文字の情報だけではありません。挿絵や写真といった画像の情報もあります。NDLでは、資料中の挿絵や写真などの画像を検索する手段の研究も行ってきました。2022年12月の国立国会図書館デジタルコレクションのリニューアルでは、類似する挿絵や写真を検索する画像検索機能の提供も開始しています。

このような全文検索や画像検索などの新しい技術を使ったサービスの提供に至る前には、NDLラボのサイトから実験サービスとして提供している「次世代デジタルライブラリー」でその機能の有用性の検証を行っています。有用と見込んだ機能については、国立国会図書館デジタルコレクションやジャパンサーチといったNDLがシステムを運用している正式なサービスに技術提供する形で実装します。



さて、NDLでは、さらに進化した機能を模索するべく、既に動き出しています。今回の特集では、2023年2月に次世代デジタルライブラリーに追加した新機能を皮切りに、次世代技術の「仕組み」の一部を体験してみましょう。

(電子情報部 電子情報企画課 次世代システム開発研究室)

新機能 「単語や文章から画像を検索する」 を使ってみよう

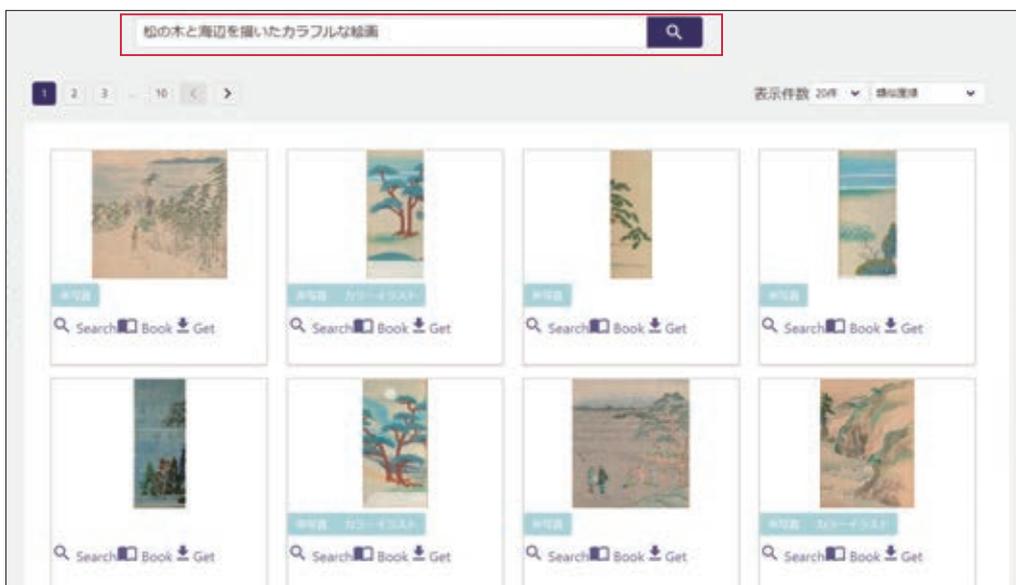
なんと、あなたが思い浮かべたシチュエーションの画像を検索できます。

これは「かわいいカエルの落書き」で検索した結果です。



梅雨時といえばカエル！ ですね。
こっちを見つめている子もいますねえ。

この例のように「カラフルな」等を入れて文章にすると、色付きの挿絵も探せます。



このように写真を探すことも
できます。空に浮かぶ巨大な
飛行船……ロマンですね！

次世代技術の「仕組み」を覗いてみよう!

次世代デジタルライブラリーにおいて提供している、挿絵や写真を検索するための2種類の機能について仕組みを覗いてみましょう。

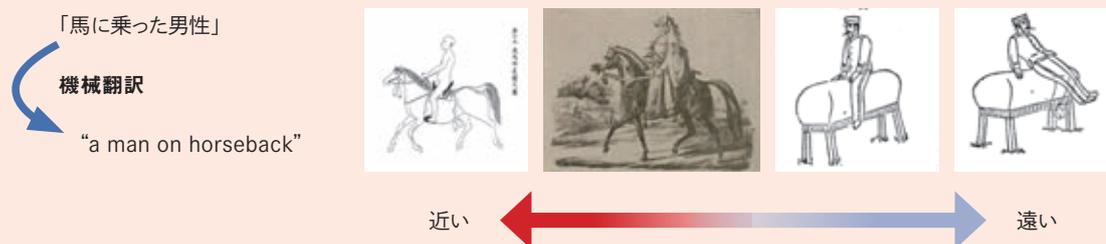
単語や文章から検索する機能

前述のとおり、2023年2月に追加した最も新しい機能です。

この機能は、CLIP (Contrastive Language-Image Pre-training) ^{*} と呼ばれる AI (人工知能) 技術を応用しています。これは OpenAI という研究機関から 2021 年に論文が発表された手法で、より具体的には「画像」と「その画像の内容を説明する文章」を結びつけることができる AI 技術の一種です。次世代デジタルライブラリーでは、「皆さんが入力した単語や文章に近い挿絵や画像」を探すために CLIP を利用しています。なお、CLIP は開発元等から公開されており、無料で自由に利用できます。

どんな仕組み? ①

皆さんがこの機能を利用して入力した単語や文章は、機械翻訳によって一度英語に翻訳され、その後 CLIP を介して「特徴量」と呼ばれる数値の羅列に変換されます。検索対象である挿絵や写真の画像に対しても、CLIP を利用してあらかじめ特徴量を計算しておくことで、「文章から作った特徴量」と「画像から作った特徴量」の間の似ている度合いを比較し、文章に近い順に画像を並び替えて表示しています。



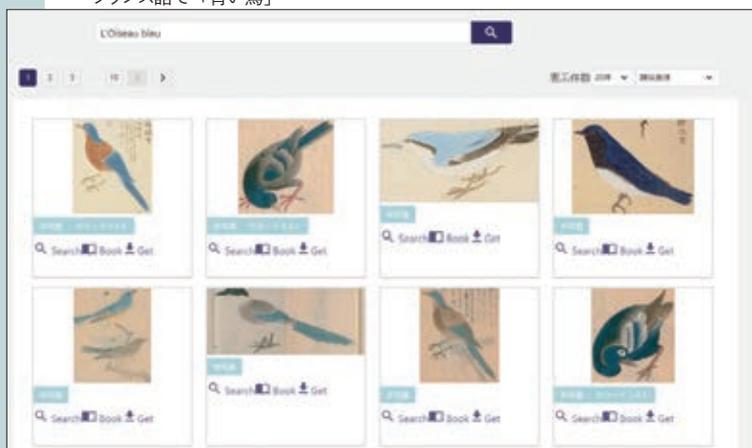
画像の出典 (左から)

陸軍乗馬学校 編『乗馬楷梯』小柴英侍, 1894 <https://dl.ndl.go.jp/pid/860171/1/24>

『異国叢書 [第2]』駿南社, 1928 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1179836/1/277>

養武会 編『帝国軍隊教科書』浜本伊三郎, 1904 <https://dl.ndl.go.jp/pid/843148/1/86>

フランス語で「青い鳥」



「機械翻訳で英語に変換している」ということは日本語以外の言語でも同じ理屈で検索できるのでは? と思われた方、鋭いですね。この機能はフランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、タイ語やアラビア語等、多言語で利用可能です。

日本の文化に関心のある海外の皆さんに、「母語で」資料を探せる機能を提供することで、日本の資料を身近に感じてもらいたい、ということも今回の新機能を開発した動機の一つです。

^{*} Radford, Alec, et al. "Learning transferable visual models from natural language supervision." International conference on machine learning. PMLR, 2021. (<https://arxiv.org/abs/2103.00020>)

画像から画像を検索する機能（類似画像の検索機能）

類似画像を検索する機能は、これまでも改善を重ねながら次世代デジタルライブラリーやジャパンサーチに搭載してきた機能です。仕組み①で紹介した「単語や文章から検索する」新機能の公開に合わせてリニューアルし、検索性能を大きく改善しました。全く同じ画像が見つかりやすくなっただけでなく、例えばカタツムリの画像で検索すると、他のカタツムリの画像が検索結果の上位に現れやすくなりました。

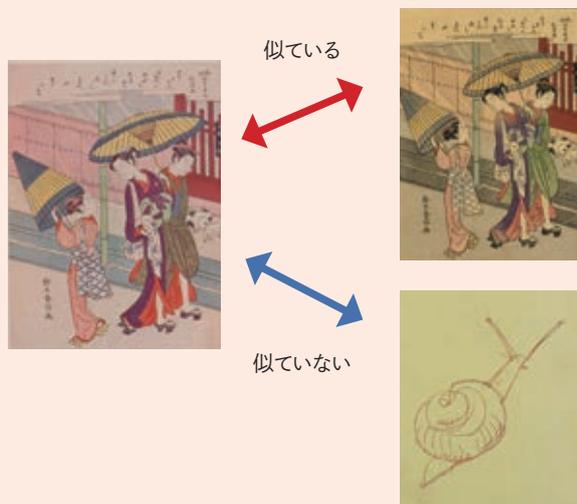


どんな仕組み？②

仕組み①でも説明した CLIP をベースに、「似た画像同士を近づけ」「似ていない画像同士を遠ざける」距離学習と呼ばれる AI の学習方法を適用して性能を高めています。学習した AI を利用して画像を特徴量に変換し、画像同士の似ている度合いを比較する、という一連の流れは仕組み①と同じです。

画像の出典

(左) 漆山天童『新撰浮世絵年表』奎光書院, 1934
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1234052/1/4>
 (右上) 鈴木春信 画『風俗四季哥仙 五月雨』[高見澤木版社], [19--]
<https://dl.ndl.go.jp/pid/9369421/1/1>
 (右下) 井上信子 編『井上剣花坊句集』叢文閣, 1935
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1208757/1/2>



性能を大きく改善した背景

類似画像の検索機能は大手検索エンジンや大手オークションサイト等にも使われており、性能を高めるための技術的な研究が盛んに進められています。技術交流のため、検索性能を競うコンテストが毎年行われ、誰でも参加することができます。

今回「改善」した類似画像の検索機能は、2022年夏に開催された画像検索の国際コンテストに当館職員（青池亨）が出場し、1,000チーム以上の参加者の中から14位にランクインした手法を実装しました。「他流試合」に飛び込んでNDLの外にいるエンジニアや研究者と切磋琢磨することで、常に最先端を追いかける次世代サービスを目指しています。

デジタル化資料から挿絵や写真を抽出する機能

そもそも、デジタル化資料の画像の中からどうやって個々の挿絵や写真を抜き出しているのでしょうか。もう少し追いかけてみましょう。

どんな仕組み？ ③

探している対象が画像の中のどこに写っているかを見つけ出す、「物体検出」というAI技術を応用しています。紙面の中の挿絵や写真といったレイアウト要素の画像上の位置と種類について国立国会図書館デジタルコレクションの画像からデータセットを作成し、AIがそれらを見つけられるように学習を行うことで、自動的に挿絵や写真を抽出する機能を実現しています。

開発の過程で作成したプログラムやデータセットのオープン化と他機関での活用

挿絵や写真を抽出するために検討・開発した手法のプログラムや、著作権保護期間が満了した資料の画像から作成したレイアウトデータセット (NDL-DocL) を Github (NDL ラボアカウント <https://github.com/ndl-lab>) に自由に二次利用可能なライセンスで公開しています。



NDL-DocL データセット <https://github.com/ndl-lab/layout-dataset>



技術を社会に向けて広く共有したことで、NDLの外でも新たな活用が生まれています。

例えば東京大学が中心となって進めている「デジタル源氏物語 (<https://genji.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>)」プロジェクトでは、デジタル化した源氏物語の和本の中から挿絵を自動的に抽出して表示するために、NDLがオープン化したプログラムが活用されています。

「デジタル源氏物語 挿絵画像の比較」機能
<https://genji.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/picture/eiri>

古典籍資料の全文検索を使ってみよう

次世代デジタルライブラリーには、2022年11月に提供を開始した古典籍資料の全文検索機能もあります(国立国会図書館デジタルコレクションには未実装)。

どんな仕組み? ④

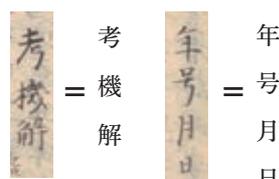
NDLOCR(本誌739号関連記事参照)の手法やソースコードを利用しながら、これまでの調査研究の成果と組み合わせることで新たに研究開発したAI技術を活用したOCRである「NDL古典籍OCR」によって、国立国会図書館デジタルコレクションの古典籍資料をテキスト化し、全文検索を可能にしています。

1. レイアウト認識モデル



駒井乗郎 編『鶯宿雑記』巻338-339, 写: <https://dl.ndl.go.jp/pid/10301536/1/18>

2. 文字列認識モデル

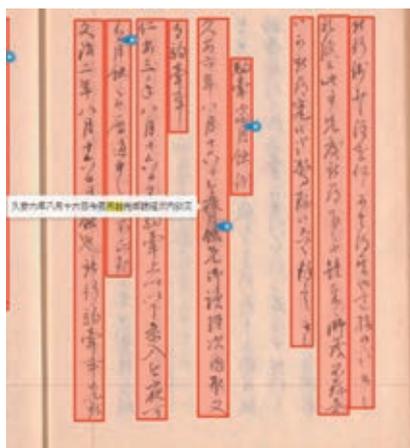
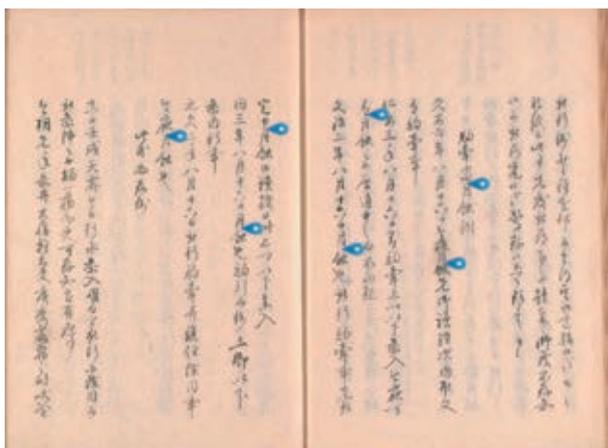


3. 読み順推定モデル

年号月日考機解
天地之機備……

このNDL古典籍OCRは、日本の人文情報学分野の研究機関や研究プロジェクトが整備・オープン化してきた古典籍資料のデータセットを学習することで性能を高めています。

例えば下図は、次世代デジタルライブラリー上で、南北朝時代に書かれた日記の写本(師守記)の中から、「月蝕」(月食)の記録を全文検索した例です。ちなみに、NDLはこの師守記の直筆本も所蔵しており、国の重要文化財に指定されています。



中原師守ほか『師守記』[8], 写
<https://lab.ndl.go.jp/dl/book/2577712?keyword=%E6%9C%88%E8%9D%95&page=26>

左の青いピンはNDL古典籍OCRが「月蝕」と読み取った箇所立っています。読み取られたテキストデータは右のように重ねて表示することができます。この例では久安6(1150)年に観測された月食に言及しているようです。

なお、このNDL古典籍OCRのプログラムや既存のデータ資源を加工して作成した古典籍OCRを学習するためのデータセットについても、オープン化して公開しています。

今後作っていききたい新機能あれこれ

いつ、どのような形で機能を実現できるかについてはまだまだ未確定なのですが、「こんなことできたらいいな」と考えていることについて、すこーしだけご紹介します。

紙に印刷された図書や雑誌以外のコンテンツに対して新たな検索方法を生み出す技術開発

NDL が扱う資料は、図書や雑誌のような紙に印刷されたコンテンツではありません。音声資料や動画資料等に対してどのような検索機能を提供できるのか、技術的な検討が必要と考えています。



例えば、上のような複数のシーンから構成される動画の資料があったとき、「ステーキを食べているシーン」を探している利用者に「動画のシーン検索」を提供できるようになると嬉しいですね。

全文検索の利便性を改善する技術開発

OCR で作成したテキストデータを利用することで全文検索の提供を始めることができましたが、検索結果のヒット件数が多すぎて把握しきれない、といった新たな課題が見つかっています。

検索テクニックや NDL Ngram Viewer (本誌 739 号関連記事参照) のような可視化サービスを駆使して検索結果の傾向を把握・絞り込むことももちろん大変重要なアプローチですが、次世代サービスとしては、キーワード検索だけでなく、質問文の形で検索し、質問に関連する内容を持つ資料を検索結果に提示できるような機能を実現していきたく考えています。



引き続き、NDL の技術開発と実験サービスの展開にご期待ください！！

(文責：電子情報部 電子情報企画課 次世代システム開発研究室 青池 亨)

本誌関連記事

「蔵書の新たな探索方法を創る—NDL の OCR テキスト化—」『国立国会図書館月報』739 号, 2022. 11, pp.15-19
「類似検索で辿るまだ見ぬ資料の世界～次世代デジタルライブラリーの画像検索を使って～」『国立国会図書館月報』717 号, 2021. 1, pp.16-20

※ p. 25 の上部及び下部左側のイラストの出典：
いらすとや <https://www.irasutoya.com/>



NINJA ✦ エンタメ 虚像と実像

本の万華鏡第 33 回

古今東西、忍者はエンターテインメントの題材として数多くの作品で取り上げられ、脚光を浴びてきました。一方で、彼らの実態はあまり知られていません。

新たに公開したミニ電子展示「本の万華鏡」では、創作という表舞台できらびやかな大立ち回りを見せる忍者を「エンタメ世界の忍者」（虚像）、歴史の裏で暗躍した実在の忍者を「ホンモノの忍者」（実像）と位置づけ、その両面から忍者の姿に迫ります。

知っているようで知らない忍者の秘密を一緒に探りにいきましょう！

「本の万華鏡」は国立国会図書館の電子展示会です。

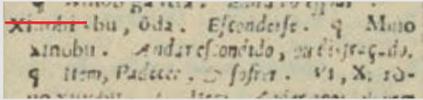
スマートフォンやPCからどなたでもご覧いただけます。

<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/33/>



ホンモノ忍者 —過酷なブラック労働

実在の忍者は大名などに仕えて、隠密活動に従事する間諜（スパイ）として危険な任務にもあたりました。式之巻では、忍者の起こりと「しのび」などの呼称について、また戦国時代、江戸時代の忍者の任務について解説します。



ポルトガル語辞書に記された Xinobi (しのび)
 (『日葡辞書』(フランス国立図書館蔵))



忍術書に記された火器の説明
 (藤林保武『万川集海』第二十一巻(国立公文書館蔵))

式之巻

エンタメ世界の忍者 —華麗なレッドカーペット

忍者のイメージは、小説や演劇といった創作物に描かれる中で形成されてきたものです。壺之巻では、児雷也、石川五右衛門、猿飛佐助など、馴染み深い有名な忍者たちを紹介します。



児雷也

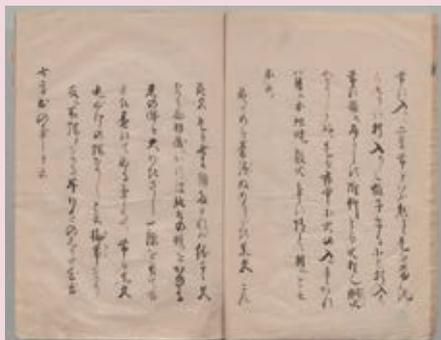


石川五右衛門

壺之巻

忍術書を読んでみよう

江戸時代に入ると、忍者が忍術を使う機会は徐々になくなります。忍術や秘伝を伝える「忍術書」が記されるようになります。この巻では、三大忍術書、特に国立国会図書館が伝本を所蔵する『正忍記』をご紹介します。



国立国会図書館が伝本を所蔵する『正忍記』

秘伝之巻

エンタメ忍者とホンモノ忍者、 ここが違う！

参之巻では、手裏剣、忍者の装束、くノ一など、よく知られた忍者にまつわるキーワードを元に、エンタメ世界の忍者とホンモノの忍者の違いに迫ります。



巻物をくわえて「印」を結ぶ



黒装束をまとう忍者



手裏剣の種類と使い方

参之巻

※紹介した各資料の詳細な画像、タイトル等は「本の万華鏡」ウェブサイト上でご覧いただけます。

本屋に

ない

本



こんにちは京都市電
「京都市電関係資料」をひもとく

(京都市文化財ボックス;第35集)
京都市文化市民局文化芸術都
市推進室文化財保護課編・刊
2022.3
157p ; 30cm
<請求記号 DK115-M13>

淡いベージュと濃いグリーンの塗り分けに、朱色の線が横に引かれたシンプルな見た目の一冊。棚にあるのを見かけたときつい目に留まり、よく見てみるとやはり京都市電を取り上げた本であった。この色遣いは、京都市電の車両がまとっていた塗装そのものである。

この本は、京都市の公文書として保管されてきた「京都市電関係資料」が京都市有形文化財に登録されたことを記念して、京都市歴史資料館で開催された展覧会「こんにちは京都市電—京都市電関係資料をひもとく—」をもとに編まれた一冊で、公文書とともに京都市電の歴史をたどる内容となっている。公文書は外部の人間にとってなかなか難解で、内容どころかどんな文書が

あるのかすらも皆目見当がつかないことがある。地域の歴史等をテーマにした展覧会で公文書が展示されることは少なくないが、キャプションには所蔵機関の情報しか無く、結局その正体は分からない、などということもある。

本書の第1章では、「京都市電関係資料」について、代表的・特徴的な文書をピックアップして画像とともに解説し、続く第2章ではいくつかのトピックに沿って関連文書が詳説されている。また、資料として「京都市電関係資料」全877点の資料群を採録した目録が掲載されており、京都市電の歴史において、経営を行った京都市交通局がどのような公文書を作ってきたか(また、残してきたか)という全容が分かる。

資料群の中でも目を引いて面白いのは、やはり図面である。資料には車両や線路の青焼き図面が多く含まれていて、今や残っていない車両についてその姿を偲ぶことができる。また、車両番号の「1」「2」「3」……といったプレートの寸法まで示された詳細図や、明朝体が特徴的な方向幕(行先表示)の図面等も存在していて、当然のことながらも細部に至るまで規格化されていたことがうかがえる。「花電車書類」には珍しく彩色が施された図面が付され、祭事や路線廃止のときなどに走った装飾電車の賑やかな姿を今に伝える。その他、実現しなかった路線や、実際には異なる姿で製作された車両の設計初期案などを見ることができ

るのも、公文書ならではの楽しみと

えよう。

このほか、第3章と続く特集では、展覧会に合わせて開催されたシンポジウムの記録と、当時の乗務員へのインタビューが載せられている。乗客や乗務員といった当時を知る人の証言には、公文書に記録されないような実情や、市電とともにあった人々の姿がありと描写される。

京都市電は、市街を縦横無尽に走っていたが、他都市の路面電車と同様モータリゼーションの波に抗えず、昭和53年に全廃された。しかしながら今でも京都市内外の各地に車両が保存されており、当時の写真と公文書、そして車両と、あらゆる資料によりその姿を追うことができるのは幸いなことである。

(新庄 航人 かずと)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

NDL Topics

図書、雑誌等を「国立国会図書館デジタルコレクション」に追加しました

国立国会図書館は、2023年2月から3月にかけて、左記の約32万点を「国立国会図書館デジタルコレクション」に追加しました。

国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) に追加した資料 (2023年2月～3月)

コレクション	追加数
図書	約293,500点
雑誌	約11,500点
博士論文	約6,100点
録音・映像関係資料	約8,600点

※本文をインターネット公開していない資料についても、書誌事項(タイトル、著者等)はインターネットから検索できます。

今回公開した資料は、現時点では全文検索の対象とはなっておりませんが、今後、順次OCRによる本文テキスト化作業を実施し、全文検索可能としていく予定です。

利用者アンケートについて

国立国会図書館では、提供する各種サービスを改善するために、アンケートを実施しています。

令和5年度利用者アンケートご協力をお願い

左記のアンケートページから皆様のご意見をお聞かせください。

○アンケートページ

<https://www.ndl.go.jp/aboutus/enquete/index.html>
国立国会図書館ホームページ内国立国会図書館について利用者アンケート

利用者サービスアンケート

国立国会図書館のサービスを利用されている方々を対象としたウェブアンケートです。

※実施期間 5月8日(月)～10月31日(火)

○アンケート回答ページ

<https://enquete.ndl.go.jp/922599/p/Bull>

こちらの二次元バーコードからもご回答いただけます。



各コンテンツ・サービスについてのアンケート

個別のコンテンツやサービスについての各種アンケートの実施も予定しています。

※実施期間 コンテンツ、サービスごとに異なります。実施時にアンケートページ及びコンテンツ、サービスのページ等でお知らせします。

令和4年度利用者アンケート結果公表のお知らせ

令和4年度は、国立国会図書館のサービスを利用されている方々に対する利用者サービスアンケートに加え、個別のコンテンツやサービスについてもアンケートを実施しました。

アンケート結果の詳細はホームページで公表しています。ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。この結果をふまえて、サービスや業務の改善に活かしてまいります。

○令和4年度利用者アンケート結果のページ

https://www.ndl.go.jp/aboutus/enquete/enquete2022_01.html

国立国会図書館ホームページ内国立国会図書館について利用者アンケート内令和4年度利用者アンケート結果

○問合せ先

総務部企画課評価係
電子メール hyokan@ndl.go.jp

新刊案内

レファレンス 868号

選挙区への定数配分に関するユニークな取組―デン

マークとノルウエーの「面積係数」―

情報公開法制における権利濫用

法的親子関係・婚姻・「嫡出」―ドイツ・フランス・

英国・日本―



A4 79頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

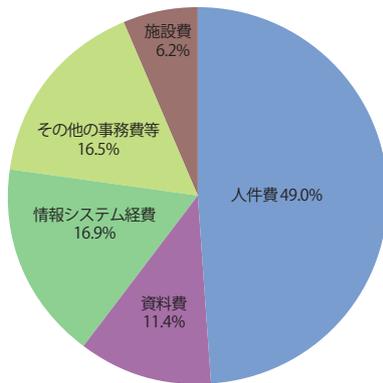
電話 03(3523)0812

国立国会図書館の令和5年度予算

国の令和5年度予算が令和5年3月28日に成立しました。国立国会図書館の令和5年度歳出予算額は、198億7423万2000円です。その概要は、表のとおりです。

令和5年度歳出予算額 (単位：千円)	
(項) 国立国会図書館	18,631,886
人件費	9,735,089
国立国会図書館共通経費	177,478
国会サービス経費	338,896
資料費	2,272,339
うち納入出版物代償金	397,476
情報システム経費	3,349,564
東京本館業務経費	1,572,048
国際子ども図書館業務経費	262,491
関西館業務経費	923,981
(項) 国立国会図書館施設費	1,242,346
東京本館庁舎整備費	998,323
関西館庁舎整備費	244,023
計	19,874,232

予算の費目別構成比(令和5年度)



36 東京本館 営業を再開した6階食堂

6

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 3 . 6

NO.746

JUNE
2023

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Gureishi kaibo kunmozu
Collection of anatomical drawings from the Meiji era
- 04 Introduction to the National Diet Library for first year university students
- 05 Using the National Diet Library for the first time
- 08 How to make the National Diet Library your own personal library
By the author of *Toshokan ni kike*
INOUE Makoto
- 19 State-of-the-art technologies for searching content in images
- 26 Kaleidoscope of books (33)
NINJA: In fiction and in reality
- 18 <Tidbits of information on NDL>
Distinguishing, unifying, and connecting: The three elements of authority control
- 28 <Books not commercially available>
Konnichiwa kyoto shiden: "Kyoto shiden kankei shiryō" o himotoku
- 29 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和5年6月号 (No.746)

令和5年6月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 川西晶大

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 3 . 6

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士